



Since 1928

# OSAKA CITY UNIVERSITY

## GRADUATE SCHOOL of SCIENCE

3-3-138, Sugimoto, Sumiyoshi-ku, Osaka, 558-8585, JAPAN

[http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/index\\_e.html](http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/index_e.html)

tel :+81-6-6605-2501

fax:+81-6-6605-2522

## 1 使用上の注意

未熟ながらレターヘッドの L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X テンプレートを作成しました。この L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X テンプレートを使用して、いかなる不利益が生じても作者は関知しません。また再配布は大阪市立大学内部にておねがいします。

## 2 技術的なメモ

### 2.1 コンパイル環境

- この文書は、pL<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X2e 環境において作成しています。
- at.sty を使用しています。(オリジナルは Colin Hogben 氏によるもの)
- 図版は pdf を用いています。pdf の図を貼り込めない TeX を使用している人は、これを機会に LaTeX 環境の更新を奨めます。理由は、eps にくらべて pdf の方がファイルサイズをずいぶん小さくできるからです。サイズ制限のある投稿論文の際に助かります。どうしても pdf を使いたくない人は、各自で eps に変換などを試みてください。
- 2 種のレターヘッドのコンパイルに必要なファイルは以下です。対応する .pdf, .bb ファイルと at.sty ファイルを、同じディレクトリに置いて作業してください。

```
LetterHead_SCI.tex  
OCU_Logo_Wing.pdf  
OCU_Logo_Wing.bb
```

```
LetterHead_SCI_Gakusyou.tex  
OCU_Gakusyou.pdf  
OCU_Gakusyou.bb
```

```
at.sty
```

## 2.2 本文の記入

本文は、 $\text{\LaTeX}$  ソースファイル中の、

```
% =====  
% Write your manuscript below, please.  
% =====
```

の下から

```
% =====  
\end{document}
```

の間に記入していただければ幸いです。  
また、

```
% ----- signature -----  
% %%% Following is for signature. Please use if you need. %%%  
\begin{flushright}  
\bigskip  
\today  
  
\vspace*{0.5cm}  
\vspace{1cm}Signature: \hspace*{5cm} \\\ % %%% Please put your HANDWRITING ...  
\smallskip  
\{\Large Your Name}\}  
Graduate School of Science\\  
Osaka City University\\  
\verb|E-mail: your_email_please@sci.osaka-cu.ac.jp|\\  
  
\end{flushright}  
% -----
```

の部分は、日付とサインの欄です。利用するなり、不要であれば消してください。

そのほかは  $\text{\LaTeX}$  の書式とお使いの環境に沿ってやってください。本テンプレートは、最小限の操作に留めています。余白、行間、ページサイズの変更も、通常どおり可能です。ただし、レイアウトがずれる場合がありますので、次節の処方方を参考にしてください。

## 2.3 上手くいかないときの処方

レターヘッドの習慣として最初のページのみにつける場合を想定しているので、レターヘッド部分は最初のページにのみ位置指定して配置し、本文に掛からないように空白を入れてあります。a4paper で調整しています。したがって、他のサイズ of 用紙や、横書きにする場合、あるいはテキストの幅や行間をかえると多少変化します。

そのような場合は、以下の方法で調整してください。L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X ソースにおける当該箇所には、

```
% ----- Tuning 1 -----|
```

のように表記してあります。

### 1. 調整方法 1

レターヘッドの後と本文の間の空白を調整するには、

```
% ----- Tuning 1 -----  
% %%%% I put 10mm space at the beginning of the first page.  
% %%%% If you would like to change, please change below.  
\vspace*{10mm}
```

の 10mm を適時お好みに合わせて変更してください。

### 2. 調整方法 2

twocolumn などを使うと、上記では上手くゆかない場合があります。その場合は、

```
% ----- Tuning 2 -----  
% %%% use other sizes : e.g. letter, A3, landscape %%%%  
% %%% In these cases, please set appropriate \headsep if ...  
%  
\usepackage[driver=dvipdfm,letterpaper]{geometry}  
\setlength{\headsep}{2cm}
```

の `\setlength{\headsep}{Xcm}` をコメントアウトし、Xcm の値を適当に調整してください。レターサイズおよび A3 横書きでは、それぞれ 2cm, 3cm くらいが適当なようです。

### 3. ( 調整方法 3 )

この調整方法を使うことは、あまり無いと思います。特殊な紙サイズを指定したり、ページのマージンを大きく変更すると必要になるかもしれません。

```
% %%%% DON'T CHANGE %%%%%%%%%%
%
% ----- Tuning 3 -----
\at({0.05\paperwidth},15mm){
%
```

における、at の引数の値を変更してください。これは、レターヘッドを描く位置を指定しています。

```
\setlength{\headsep}{2cm}
```

などで調整してください。

L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X におけるレイアウトの調整やそのほかの文法については、各人で学んでください。

## 2.4 そのほかメモ

- at.sty には、同封のものとは異なる内容か version 違いが存在するようです。
- 小文字をサイズの小さい大文字にするスタイル  
`\textsc{Osaka City University}` --> OSAKA CITY UNIVERSITY  
 を使いたかったのですが、太文字と併用できない環境（当該フォントを持たない環境）が多いようなので断念しました。改変して利用する人は工夫してください。

August 29, 2011  
 大阪市立大学大学院理学研究科  
 数物系専攻  
 神田展行